

横浜技術士懇話会

(HP: <http://yokohamagijutusi.sakura.ne.jp>)



2025年4月会報(494回)



◇2025年4月講演会のお知らせ(第494回)

開催日時：2025年4月11日(金) 14:00~16:00

開催場所：かながわ県民活動サポートセンター 7階 709会議室

講演テーマ：Robo+ismの活動と今後について

講演概要：横浜国立大学 Robo+ism は NHK 学生ロボコン優勝を目指して活動しているサークルである。2013年のNHKロボコン初出場以来、様々な結果を残してきた。今回の講演では、これまでの活動内容と現在制作に取り組んでいるNHK学生ロボコン2025について紹介していく。

講師：後藤 開 氏、朝倉 遼 氏、森北 光 氏

講師略歴：後藤 開 氏

横浜国立大学、理工学部、機械・材料・海洋系学科 機械工学 EP、3年
Robo+ism、代表、ワンダーフォーゲル部、67期

朝倉 遼 氏

横浜国立大学、理工学部、機械・材料・海洋系学科、機械工学 EP、3年
Robo+ism、副代表

森北 光 氏

横浜国立大学、理工学部、化学・生命系学科、バイオ EP、3年
Robo+ism、連絡担当者

◇2025年3月講演会（493回）の報告

開催日時：2025年3月14日（金）14：00～16：00

開催場所：かながわ県民活動サポートセンター 7階 709会議室

講演テーマ：エネルギーの1つとしての水素とその動き、それに伴う資源入手

講演概要：1965年：ジェミニ宇宙船に燃料電池を使用、2011年：日本で“エネファーム”が市販、2014年：“ミライ”の発売など水素を発電に使用する機運が高まった。その後、燃料として高価格、水素供給の安全規制等、水素スタンド設置コスト高などから設置が停滞し市場への展開が進まない。水素製造方法には水分解、電解膜、アンモニア合成などがある。その製法によりグレー水素、ブルー水素、グリーン水素に分かれ、グリーン水素が一番クリーンな製法だがコスト的には一番高い。水電気分解製法では発電効率アップのため電極素材として多元素ナノポーラスなど新素材開発が種々進んでいる。新素材の資源として海底資源が注目されている。数千メートル海底のマンガン団塊を採取する技術に日本、カナダ、中国などが取り組んでいる。講師からも海底資源採取方法が提言された。水素利用の拡大、普及のためには水素製造、運搬、貯蔵、利用の各分野における一層の技術開発、利用の為のインフラ整備が望まれる。

講師：高橋 淳 氏、

講師略歴：1946年生：岐阜県（本巣郡）

1962年：岐阜北高校入学

1969年：日本発条（株）：本社（磯子）・精密ばね（事）（愛甲郡：内陸工業団地）

‘95～‘14年：香港：創紅有限公司（活動は中国・広東省が主）

‘93年～：（日本（有）ハイメック）

2015年～：会社清算し、無職

出席者（敬称略）：

高橋 淳（講師）金盛 正至、寺田 溥、鈴木 弥栄男、武藤 功二、森北 光（RI）

朝倉 遼（RI）、荒井 陸（RI）、後藤 開（RI）、廣田 勝彦、小澤 明夫、

村田 一郎、岩崎 昌光、山川 隆、矢田 宏樹、齊藤 一夫（以上16名）

注：（RI）横国ロボ+イズムメンバー



◇次回の研修会予定

- 2025年5月9日（金）（第495回）
講演一マ：未定
講師：鈴木 弥栄男 氏
- 2025年6月見学会（第496回）
見学日時：未定
見学場所：未定
- 2025年7月11日（金）（第497回）
講演一マ：未定
講師：村田 一郎 氏

◇編集後記

寒波が到来したのも束の間、一変して初夏の陽気になり桜の開花も一段と進みそうです。観光会社もツアーのスケジュール組み立てに頭を悩ませている事と思います。米国の新大統領のアメリカファースト方針の本、従来の国際ルール無視、同盟国との関係軽視など国際的に物議を醸しこれまでの均衡した状態から一転し不安定状態が発生しつつあります。

今後の流動的な世界情勢に目が離せないでしょう。

（文責 齊藤 一夫）

・発行者

横浜技術士懇話会

YPEC(Yokohama Professional Engineers' Club)

・発行責任者

齊藤 一夫

TEL,FAX:045-361-1073

E-Mail:sunflora1515@ybb.ne.jp

横浜技術士懇話会 HP

[http:// yokohamagijutusi.sakura.ne.jp](http://yokohamagijutusi.sakura.ne.jp)